

まちかどトーク（博労地区）議事要旨

日時：令和7年11月29日（土）16:00～18:00

場所：博労地域交流センター

参加者：68人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「高岡市の空き家対策」について建築政策課より説明の後、質疑応答

参加者

老朽化が進んでいる空き家は、所有者が不明であったり、遠方に住んでいるため、自治会からの依頼に応じてもらえないことがある。市長の権限で行政代執行が出来るので現地確認など具体的に動いてほしい。

建築政策課

行政代執行という手段もあるが、まずは所有者に対応いただくことが第一だと考えている。相談があった空き家は、状況に応じて、順番に所有者調査を行っており、指導文書などの通知を送っている。行政代執行以外の方法もあり、状況を見極めて判断していく。

参加者

空き家に対する相談や要望は、個人と自治会のどちらから申し出ると良いか。

建築政策課

可能であれば自治会内にある複数の空き家の中で優先順位を付けて、自治会から相談いただきたい。

市長

空き家の解体費用は、基本的に所有者に負担していただくため、所有者に支払い能力があるかどうかが重要である。

参加者

所有者不明で連絡を取ることができない空き家の場合はどうなるのか。

建築政策課

市で所有者の戸籍などを調査し、相続人となる可能性のある方を調べて、必要に応じて、指導などの対応を行う。

参加者

一人暮らしの方が生前に自宅を公的機関へ寄付したいと考えても、受入れてもらえないと聞いた。また、空き家バンクで成約した物件には、実際に人が住んでいるのか。街中には、駐車スペースがないなど、車社会に対応していない空き家が多いが、そうした空き家に若い世代のニーズはあるのか。

建築政策課

現在、市では空き家の寄付を受け入れていない。空き家バンクの物件は、賃貸目的で購入される場合もある。市では「隣地取得支援制度」を設け、駐車場用地や、建て替えの

際に敷地として使うための隣地の取得費用や、建て替え時の費用を支援している。

参加者

市役所は所有者が相続放棄したことを裁判所に確認することはできるのか。

建築政策課

空き家の所有者調査の中で、相続放棄の確認は可能である。

参加者

借地権が設定された土地に建つ空き家について、老朽化が心配なので、その物件に自治会として様子を見るために立ち入ることはできるのか。

建築政策課

基本的には他の方の所有地なので立ち入りはできないが、その空き家の状態によっては、状況確認ができると思うので、市へ個別に相談いただきたい。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

故郷を離れた人に戻りたいと思わせるには、街に魅力が必要と感じる。首都圏と比べると富山県は出生率が良いが、若い女性の流出が問題である。女性が流出しないようにするために、市民として出来ることはあるのか。

市長

難しい現状だと思っている。鹿児島県に人口 300 人程の「やねだん」という小さな集落があり、公民館長が自主財源を確保するためにサツマイモを栽培し、商品にして収益を上げている事例がある。高岡市もこれまで大きな支出をして駅を整備したりしてきたが、これからは市役所も市民と一緒に考えていく、現場の声を聴くことが必要だと思う。諦めずに取り組んでいきたい。

参加者

ふるさと住民登録制度があると聞いた。ふるさと住民に登録することでメリットがあれば、関係人口を増やすことができると思う。

市長

関係人口は重要である。「やねだん」では、30・40 代の故郷を離れた人が配偶者や子どもを連れて帰ってきている。理由を聞くと、当時高校生だった世代がさつまいも作りなどの思い出が心に残っていて、故郷に戻る人が増えている。地域ぐるみのやり方は大切だと思っている。

参加者

富山市から 45 年前に転入した。当時の高岡は賑やかな街だったが、徐々にお店も減り、末広町もシャッター街になり、寂しく感じている。先日、城端線・氷見線が一本化する話を聞いたが、高岡市にメリットはあるのか。城端線の利用者が高岡駅で下車し、街に来てもらうには目的、魅力、工夫が必要である。市長は具体的にどんなまちづくりをイメージしているのか教えて欲しい。

市長

「歩けるまちづくり」を考えている。城端線・氷見線に関しては高岡市でかなりの負担をしなくてはならない。バス路線も便利に繋がるように議論を始めた。

参加者

旧市街地から郊外の車庫付きの家が建てられる場所に人口が流れている。空き家が増えているなら、空き家をサテライトショップのようにして少しでも賑やかにするなど、住民が元気にならないと街は変わらない。

市長

すぐに変わるということは難しいが、大きな方針として箱モノを作るのではなく、人に投資したい。旧ダイエー跡地に市役所を建てると何百億円の投資となるが、それで本当に人が賑わうのか、この街で暮らしてよかったと思えるのか、歩ける街になるかと言ったら違うと思う。高岡は、ホテルニューオータニや御旅屋セリオ、ウイング・ウイング高岡や高岡駅といった巨大開発を何度も行ってきた。建物ばかり立派になったが、一方で空き家は増えている。この矛盾を解きほぐすためにも、皆さんと対話をしながら、色々な人の知恵を借りてまちづくりを進めていきたいと思っている。

参加者

新庁舎整備ロードマップを白紙撤回されたが、市役所は大切な場所だと思っているので、新庁舎整備に賛成していた。市役所は市職員が働く場所のみではなく、市民が集まる場所である。市役所には駐車できないほど、多くの人が来ている。災害が多い時代に、防災の拠点となる所でもあり、市民の安全安心を守る場所の一つである。築 45 年が経過し、耐震化しても、将来また建て直しが必要となる。

参加者

高岡駅北口から厚生連高岡病院までの道は、朝の渋滞が多い。救急車が通る道なのに、なぜ開発が止まっているのか。冬場の除雪作業に従事しているが、民間の除雪はシステムが古く、出動しないと賃金が発生しない。人口減少も進む中、若い世代が今後の除雪を担ってくれるか分からない。本当に必要な所には投資をして欲しい。